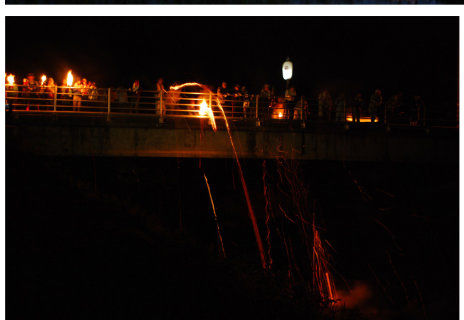




苗代田で祝詞をあげる



古麻比橋から松明を送る

無形民俗文化財

65. 経念の虫送り

きょうねん むしおく

■指定年月日 平成8年7月8日(1996)

■執行日 6月17日

■所在地 若山町経念

■保存団体 古麻志比古神社氏子会

虫送りは、初夏の田植えが終わった頃の日本伝統行事のひとつで、農作物の害虫を駆逐し、その年の豊作を願う目的で行われる。

若山町経念では、6月17日午後2時に地区住民が古麻志比古神社に集まり、害虫駆除を祈願する。夕方7時から子供達も加わり、40名前後の参加者それぞれに竹を束にした2m前後の松明を持ち寄る。神前のろうそくの火を松明に灯し、鳥居前から高張り提灯を先頭に太鼓や鉦を鳴らして「ウンカ虫送れ、佐渡まで送れ」と大声で唱えながら、行列が農道を通る。かつて苗代田があった水田13～14箇所、竹の先に神垂を付けた御幣を立て、神主が祝詞をあげて害虫の駆除を祈る。山岸を回っ

て井林神主橋から若山川沿いを通り、古麻比橋まで地区内をくまなく一周巡る。ウンカなど稲の害虫を松明の火で誘引しながら、最後に地区境の古麻比橋で祝詞をあげて、燃える松明を若山川へ送り出す。

虫送りには、サネモリ様などと呼ばれる巨大な藁人形が登場する地域もあるが、経念ではみられない。現在では、市内唯一の残存習俗として貴重である。